

# 国語科教科書教材の効果的な指導方法

長期研修員 渡 邊 章

Watanabe Akira

## 要 旨

高等学校の国語科で、従来取組が低調であるとされてきた「話すこと・聞くこと」の指導に重点を置き、教科書教材を効果的に活用した指導方法を考えた。これまで教師主導型の傾向にあった授業から生徒が主体的に考え行動する授業へ改善することによって、現行の学習指導要領の基本的なねらいである「生きる力」の育成を目指す。

キーワード： 教科書教材、効果的活用、主体的、生きる力

## 1 はじめに

現行の高等学校学習指導要領において選択必修科目として、県内の多くの高校が選択している「国語総合」は、総合的な言語能力を伸ばすため、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」の各領域の学習が調和的に行われるよう「国語Ⅰ」に代わって設置された科目である。しかし、「国語総合」の教科書の多くは「現代文・表現編」「古典(古文・漢文)編」で構成されており、「国語Ⅰ」の教科書と比較してあまり変化は見られない。したがって、以前から文章や作品等の読解学習が中心で、「話すこと・聞くこと」の学習に対する取組が低調であった授業形態も、あまり変化が見られない。

そこで、「話すこと・聞くこと」の指導を活性化し、各言語領域の調和のとれた指導を行うため、「読むこと」の教材とされている「現代文編」の中から、多くの教員がなじんだ作品である、いわゆる「安定教材」を用いて「話すこと・聞くこと」の指導例を提案したい。また、生徒が意欲的に参加する活動を通して理解を深めていけるような授業を行うことで現状の指導者主体の授業形態を打破したい。

## 2 研究目的

「国語総合」の教科書からいわゆる「安定教材」を授業で効果的に活用することによって生徒の「話す・聞く」能力を育成する。

## 3 研究方法

- (1) 平成19年度の「国語総合」、平成10年度・昭和63年度の「国語Ⅰ」、昭和54年度の「現代国語Ⅰ」それぞれの教科書「現代文編」より、「安定教材」といわれる作品（論理的な文章・文学的な文章）について、採択の傾向と変遷の調査。
- (2) いわゆる「安定教材」について、「話す・聞く」能力の育成に視点をおいた指導方法の創意工夫。

## 4 研究内容

教科書調査の結果、論理的な文章では、新鮮な題材をテーマとした作品、論理の筋や構成が明快で生徒に問題意識をもたせる作品が選ばれており、最も採択の多い作品は山崎正和の『水の東西』である。

また文学的な文章では、古くから名作として評価の高い作品を中心に現場の教員から要望の多い作品、生徒の興味・関心をひく作品が選ばれており、最も採択の多い作品は芥川龍之介の『羅生門』である。

以上より、山崎正和の『水の東西』、芥川龍之介の『羅生門』をいわゆる「安定教材」とし、論理的な文章、文学的な文章を通して、もっとも採択数の多い『羅生門』を使用して「話す・聞く」能力の育成を目指す指導法を考察する。

### 国語総合学習指導案

#### (1) 育成を目指す「話す・聞く」能力

課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場を尊重して話し合う。

#### (2) 単元名 小説『羅生門』（5時間）

#### (3) 単元の目標

ア 自分の考えをもって課題の解決や思考の深化を図ろうとする態度を身に付ける。(関心・意欲・態度)

イ 課題を解決したり考えを深めたりするために、目的や場に応じて、筋道を立てて効果的に話したり的確に聞き取ったりする能力を身に付ける。(話す・聞く能力)

ウ ディベートの定義や方法、表現技法の効果について理解する。(知識・理解)

#### (4) 観点別評価の進め方

ア 各時間の指導と評価の実際

##### 第1時

|               |   |  |  |
|---------------|---|--|--|
| 本時の目標         | ディベートの定義や方法と効果的な朗読の方法について知る。  |  |  |
| 本時の評価規準及び評価方法 | [知識・理解] ①② ディベートの定義や方法、効果的な朗読方法について理解している。(学習終了後に評価)  |  |  |
| 指導と評価の実際      | 学習活動  | 指導上の留意点  | 評価の実際  |
|               | <ul style="list-style-type: none"> <li>ディベートの定義や方法、実施上の注意等を学習する。</li> <li>本文を読む。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>ディベートについての知識や、経験など生徒に質問しながら、生徒の実態に応じて説明をする。</li> <li>本文を指名して音読させる。</li> </ul> | <p>「知識・理解」①ディベートの定義や方法の理解については、学習終了後に評価する。</p> <p>「知識・理解」②声の大きさ、間の取り方、抑揚等音読の様子を観察する。</p> <p>-----<br/>Cの生徒への指導の手だての例<br/>-----<br/>音読の際に不十分な点について具体的に指摘したり、範読して後に続いて読ませたりする。</p> |

##### 第2時

|               |   |  |   |
|---------------|---|--|---|
| 本時の目標         | テーマ「極限状況における悪事は許されるか」について「許される」を肯定側、「許されない」を否定側とし、グループ学習に向けて肯定側・否定側それぞれの立場で立論し、その違いを明らかにする。     |  |   |
| 本時の評価規準及び評価方法 | [関心・意欲・態度] ① 単元の目標を理解し、自分の考えをもとうとしている。(ワークシート1記述の確認)  |  |   |
| 指導と評価         | 学習活動  | 指導上の留意点  | 評価の実際   |
|               | <ul style="list-style-type: none"> <li>テーマ「極限状況における悪事は許されるか」について「許される」を肯定側、「許されない」を否</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート1 a (資料1) を用いて「立論メモ」を作成させる。</li> <li>多くの論拠を出させ</li> </ul> | <p>「関心・意欲・態度」①机間指導により、「ワークシート1」の記述を確認する。</p> <p>-----<br/>Cの生徒への指導の手だての例<br/>-----<br/>机間指導において登場人物のもの見方や感じ</p> |

|             |                                |    |   |
|-------------|--------------------------------|----|---|
| の<br>実<br>際 | 定側としてそれぞれの立場で論理構築を行い立論メモを作成する。 | る。 | 方に興味をもち、自分と比較しながら考えるよう助言することで取組を促したり、書式を設定したワークシート1bに取り組みせたりする。 |
|-------------|--------------------------------|----|---|

第3時

|               |   |  |  |
|---------------|---|--|--|
| 本時の目標         | テーマ「極限状況における悪事は許されるか」についてグループ学習を実施し、自分の考えを筋道を立てて効果的に話したり、話し手の考え方を的確に聞き取ったりする力を身に付ける。  |  |  |
| 本時の評価規準及び評価方法 | <p>[関心・意欲・態度] ② 自分の考えをもって課題の解決や思考の深化を図ろうとしている。(行動の観察)</p> <p>[話す・聞く能力] ① 論点を明確にして、自分の考えを筋道立てて話している。(行動の観察・ワークシート2の記述の確認)</p> <p>[話す・聞く能力] ② 話し手の考え方、強調点などをとらえ、必要なことを聞き取っている。(行動の観察・ワークシート2の記述の確認)</p> |  |  |
| 指導と評価の実際      | 学習活動  | 指導上の留意点  | 評価の実際  |
|               | <p><b>グループ学習</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えをもって課題の解決や思考の深化を図りながらグループで話し合う。</li> <li>立論メモに基づいて論点を明確にして、自分の考えを筋道立てて話す。</li> <li>話し手の考え方、強調点などをとらえ、必要なことを聞き取る。</li> </ul>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>1グループ5、6名で編成し、肯定側・否定側両方の立場でそれぞれ自分の考えを出させ、話し合わせる。</li> <li>話し合いの内容をワークシート2a(資料2)に記入させる。</li> <li>ワークシート1、2は立論メモであると同時に相手の反論の予測表となることを示す。</li> <li>次時のディベートに備えてグループの話し合いでまとめた意見を整理し、十分準備をしておくよう指示する。</li> </ul> | <p>「関心・意欲・態度」②机間指導において話し合いの様子を観察する。</p> <p>----- Cの生徒への指導の手だての例 -----</p> <p>グループの話し合いにおいて他の生徒のを参考にしながら自分の考えをまとめるよう指導したり、書式を設定したワークシート2bに取り組みせたりする。</p> <p>「話す・聞く能力」①②話し合いの様子を観察したり、話し合いの結果に関するワークシートの記述内容を授業後に分析したりする。</p> <p>----- Cの生徒への指導の手だての例 -----</p> <p>①意見とその根拠を明確にし、「説明・理由・例」という型を用いて自分の考えを話すよう助言する。</p> <p>②話のキーワードと考えられる語をメモし、自分の意見と比較し、整理しながら聞くよう指導する。</p> |

第4時

|               |   |  |  |
|---------------|---|--|--|
| 本時の目標         | テーマ「極限状況における悪事は許されるか」についてディベートを実施し、自分たちの考えを筋道を立てて効果的に話したり、話し手の考え方を的確に聞き取ったりする力を身に付ける。 |  |  |
| 本時の評価規準及び評価方法 | [関心・意欲・態度] ② 自分の考えをもって課題の解決や思考の深化を図ろうとしている。(行動の観察)                                    |  |  |

|          |   |   |  |
|----------|---|---|--|
|          | <p>[話す・聞く能力] ① 論点を明確にして、自分の考えを筋道立てて話している。(行動の観察・ワークシート3の記述の確認)</p> <p>[話す・聞く能力] ② 話し手の考え方、強調点などをとらえ、必要なことを聞き取っている。(行動の観察・ワークシート3の記述の確認)</p>   |   |  |
|          | 学習活動  | 指導上の留意点   | 評価の実際  |
| 指導と評価の実際 | <p><b>ディベート</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループの話合いに基づいて課題の解決や思考の深化を図りながらディベートを実施する。</li> <li>グループでまとめたことを基に論点を明確にして、決められた立場で自分の考えを筋道立てて話す。</li> <li>話し手の考え方、強調点などをとらえ、必要なことを聞き取る。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>ディベーターとして10名を選び、肯定側・否定側にそれぞれ5名ずつ割り当てる。</li> <li>ワークシート3 a (資料3) を使って立論・聞き取りメモを取らせながらディベートを実施させる。</li> <li>「評価用紙」により、審判に評価させる。</li> </ul> | <p>「関心・意欲・態度」②ディベート中の様子を観察する。</p> <p>-----<br/>Cの生徒への指導の手だての例<br/>-----</p> <p>ディベートの意義や目的を明示し、理解させることで課題の解決や思考の深化を図るよう指導したり、書式を設定したワークシート3 bに取り組ませたりする。</p> <p>「話す・聞く能力」①②ディベート中の様子の観察やディベート後の結果に関するワークシートの記述内容を授業後に分析する。</p> <p>-----<br/>Cの生徒への指導の手だての例<br/>-----</p> <p>①意見とその根拠を明確にすることで論点を明確にし、発表の型を用いて聞き手や場面を意識して話すよう指導する。</p> <p>②話の内容について意見とその根拠とに分けてメモをとり、自分の意見との共通点や相違点について考えたり、相手の示す根拠などを確かめるために質問したりするよう指導する。</p> |

第5時

|               |   |  |   |
|---------------|---|--|---|
| 本時の目標         | これまでの学習を通して話し合ったり、討論したりすることの意義について理解する。   |  |   |
| 本時の評価規準及び評価方法 | [知識・理解] ①② ディベートの定義や方法、効果的な表現技法について理解している。(ディベート終了後のワークシートや評価用紙、事後アンケートの記述の確認)                      |  |   |
|               | 学習活動  | 指導上の留意点  | 評価の実際   |
| 指導と評価の実際      | <ul style="list-style-type: none"> <li>まとめとして指導者からの全体の講評と補足説明を聞く。</li> <li>事後アンケートを実施する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>1～4時までの授業を通してよかった点、改善すべき点等について具体的に講評する。</li> <li>不十分な点があれば補足説明をする。</li> </ul> | <p>「知識・理解」①②これまでのワークシート・評価用紙の記述や事後アンケートを授業後に提出させ、ディベートの定義や方法、効果的な話し方について理解しているか確認する。</p> <p>-----<br/>Cの生徒への指導の手だての例<br/>-----</p> <p>場面や目的に応じた話し方や言葉遣いについて、以後の関連する単元においても指導し、適宜・随時に評価する。</p> |

資料1 ワークシート1

|           |     |
|-----------|-----|
| a 個人用立論メモ |     |
| 肯定側       | 否定側 |
|           |     |

資料2 ワークシート2

|             |     |
|-------------|-----|
| a グループ用立論メモ |     |
| 肯定側         | 否定側 |
|             |     |

資料3 ワークシート3

|         |  |
|---------|--|
| a 討議用資料 |  |
| 肯定立論    |  |
| 否定質疑    |  |

|           |     |
|-----------|-----|
| b 個人用立論メモ |     |
| 肯定側       | 否定側 |
| ○○○       | ○○○ |
| ○○○       | ○○○ |

根拠となる事実      判断の理由

|             |     |
|-------------|-----|
| b グループ用立論メモ |     |
| 肯定側         | 否定側 |
| ○○○         | ○○○ |
| ○○○         | ○○○ |

根拠となる事実      判断の理由

|         |     |
|---------|-----|
| b 討議用資料 |     |
|         | ○○○ |
| 肯定立論    | ○○○ |
| 否定質疑    |     |

根拠となる事実      判断の理由

イ B「おおむね満足できると判断される」状況（学習活動における具体的評価規準）と、A「十分満足できると判断される」状況と評価する際の[キーワード]、及びC「努力を要すると判断される」生徒への指導の手だての例

#### 関心・意欲・態度

|  |  |
|--|--|
| B①単元の目標を理解し、自分の考えをもとうとしている。  | B②自分の考えをもって課題の解決や思考の深化を図ろうとしている。   |
| A[丁寧な分析・整理] 本文を詳細に読み取り、登場人物の心情や行動を丁寧に分析し、整理した上で自分の考えをもとうとしている。   | A[積極的な取組] グループ活動やディベート学習へ積極的に取り組み、自分の考えや思考の深化を図ろうとしている。  |
| ----- Cの生徒への指導の手だての例 -----<br>登場人物のものの見方や感じ方に関心を持ち、自分と比較して考えるよう助言することで取組を促したり、書式を設定したワークシートに取り組みせたりする。 | ----- Cの生徒への指導の手だての例 -----<br>ディベートの意義や目的を明示し、理解させることで課題の解決や思考の深化を図るよう指導したり、書式を設定したワークシートに取り組みせたりする。 |

#### 話す・聞く能力

|  |   |
|--|---|
| B①論点を明確にして、自分の考えを筋道立てて話している。   | B②話し手の考え方、強調点などをとらえ、必要なことを聞き取っている。  |
| A[分かりやすく伝える工夫] 自分の考えを相手に分かりやすく伝えるための工夫をしながら筋道の立った発言をしている。                                    | A[批判的な聞き取り] 話し手の考えの流れをたどりながら、意見の根拠や論理性を批判的に聞き取り、疑問や確かめたい事柄をもつことを通して自分の考えを深めている。           |
| ----- Cの生徒への指導の手だての例 -----<br>「説明・理由・例」という型を用いて意見とその根拠を明確にし、話す順序を工夫するなど聞き手や場面等を十分意識するよう指導する。 | ----- Cの生徒への指導の手だての例 -----<br>話し手の立場や考えを尊重し、話のキーワードと考えられる語をメモしながら、自分の意見と比較し、整理して聞くよう指導する。 |

#### 知識・理解

|                          |  |
|--------------------------|--|
| B①ディベートの定義や方法について理解している。 | B②声の大きさ・話の速度・強弱、身振り手振り・言葉遣いなど表現技法について理解している。 |
| A[効果と必要性の認識]ディベートの定義や方   | A[表現技法の効果的な活用] 様々な表現方法が相手                    |

法について理解し、さらにその効果と身に付けるべき能力であるものとしてその必要性を認識している。

----- Cの生徒への指導の手だての例 -----  
場面や目的に応じた話し方や言葉遣いについて、以後の関連する単元においても指導し、適宜・随時に評価する。

に分かりやすく伝えるために役立つことを理解して、話し合いや討論の際に効果的な活用法を理解している。

----- Cの生徒への指導の手だての例 -----  
話し方に強弱を付けたり、身振り手振りなどを取り入れた話し方を具体的に示すことで工夫を促すとともに継続的に指導し、適宜、随時に評価するようにする。

## 5 研究結果と考察

本研究では、『羅生門』を使用した、ディベートを通じて「話す・聞く」能力を育成する指導例を提案した。『羅生門』は比較的テーマの設定が容易であるという点でディベート教材として適していると考えられる。ディベートは「論理的な話し方」や「話し手の話を注意して聞く態度」を身に付けることができ、相手を説得する力や相手の意見を尊重する態度を身に付けるために非常に効果的である。そして、ディベートを通じて「効果的な話し方」や「的確な聞き方」を学習することは、「伝え合う力」ひいては「生きる力」につながっていくと考える。今の生徒に「話す・聞く」能力が必要であることからディベートに関連する学習は、小・中学校から設定されており、国語科以外に小学校の社会、中学校社会の公民分野でも設定されている。しかし、高校生がディベートや討論の授業を小・中学校時にどれだけ経験しているかを調査した結果、経験しているという生徒はかなり少ないことが分かった。また、高等学校についても県内の学校において、ディベートに関する学習への取組はあまり積極的ではないようである（H19奈良県高等学校教育課程研究集会提出の「国語総合」シラバスより）。ディベートに関連する学習があまり積極的に取り組まれていない背景には、「時間がない」、「生徒の発言を引き出すのが困難」、「生徒が消極的で盛り上がらない」等の固定観念があると思われる。しかし、十分な準備と緻密な計画により充実した討論が可能になると考える。

本指導例では、前もって十分準備をさせた上でディベートに取り組ませたり、議論を充実させるための立論メモや討議資料の作成に当たっては、「根拠となる事実」と「判断の理由」を意識して、筋道を立ててまとめさせたりすることに留意した。また、生徒の実態に応じてあらかじめその書式を設定したワークシートを作成することも効果的であると考え（資料1～3）。

## 6 おわりに

これまで往々にして行われがちであった教える側から教えられる側への一方的な知識の伝達の授業だけで、生徒に「伝え合う力」を身に付けさせることは難しい。求められているのは生徒が目的の実現に資する、豊かな言語活動を主体的に行えるような多様で柔軟な学習形態である。本研究で提示したディベートをはじめとして、話し合いや発表等、生徒の主体的な学習の実践を通して言語能力を身に付け、「伝え合う力」の育成に取り組んでいきたい。

## 参考文献

- |     |           |                                |      |      |
|-----|-----------|--------------------------------|------|------|
| (1) | 田中孝一・鳴島甫  | 「高等学校学習指導要領の展開－国語科編－」          | 明治図書 | 2000 |
| (2) | 河野庸介・金子守  | 「中学校学習指導要領の展開－国語科編－」           | 明治図書 | 1999 |
| (3) | 小森茂・甲斐睦朗  | 「小学校学習指導要領の展開－国語科編－」           | 明治図書 | 1999 |
| (4) | 田中孝一      | 「新しい高校国語 指導の理論と実践 話すこと聞くことの指導」 | 明治書院 | 2001 |
| (5) | 田中孝一・西辻正副 | 「評価基準が授業を変える！高校国語の評価基準と実践例」    | 明治書院 | 2004 |